令和５年度

学校教育努力点

名古屋市立枇杷島小学校

１　主題

伝え合う！びわじまっ子
―伝えたいことを明確にした対話活動を充実することを通して―

２　主題設定の理由

昨年度は、「課題に対する自らの考えをはっきりさせ、友達と共有したり、比較・検討したりしていくことで、自分と異なる考えを参考にしたり、認めたりしながら、自分の考えを広げること」をねらいに、ＩＣＴを活用して実践を行ってきた。単元を通してＩＣＴを活用する場面を設定することで、知りたいことをすぐに調べ、その情報をもとに自分の考えをまとめたり、表現したりすることができた。さらに、画面上で互いの考えを共有したり、比較したりすることで、多様な考え方に気付く姿が見られた。しかし、互いの考えを画面上で共有するだけでは、相手の考えを理解することが難しいと感じる様子も見られた。これは、多くの考えを同時に見ることで、情報量が多くなってしまったことや画面上だけでは考えの内容が明確に伝わらなかったことが原因であると考える。また、感染症拡大の影響で様々な制限があり、対話活動を十分に行うことが難しかったことも原因であると考える。そのため、伝えたいことを明確にすることで、伝える力を高めたり、ポイントを明確にすることで聞く力を高めたりすることが必要であると考える。そこで、対話活動を充実させることで、児童の伝える力と聞く力を高めていく必要があると考える。

令和３年発出の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の中では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をはかることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながることが示されている。子ども一人一人に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うとともに、子ども同士や多様な他者と協働して学習を進めていく必要がある。伝えたいことを明確にして伝える力やポイントを意識して聞き取る力を高めることで、友達と協働して課題を解決していくための力にできると考える。

そこで、昨年度までの成果と課題を踏まえ、「伝え合う！びわじまっ子」の育成を目指したい。「伝え合う」姿とは、伝えたいことを明確にして自分の考えを伝えたり、視点を明確にして相手の考えを聞いたりする姿のことである。そのため、まずは、伝える力を高め、目指す児童の姿に段階的に迫っていけるようにしたい。例えば、低学年の児童では、気付いたことや考えたことをペアやグループの中で多く伝える姿であり、中学年では、伝えたいことを意識して、ペアやグループの児童に自分の考えを伝える姿。また、高学年では、課題に対する自分の考えを資料を用いてわかりやすく伝える姿など、それぞれの学年の発達段階に応じて、伝える力の育成を進める。

さらに、昨年度まで行ってきたＩＣＴなどを最大限に活用した上で、対話活動における「個に応じた指導」の充実を図る。子ども一人一人の個性や特性に応じた手立てを講じることで、伝えたいことを明確にした対話活動となるようにする。昨年度までの実践で、単元を通してＩＣＴを活用することは、児童が課題を明確につかんだり、考えを広げたりする上で効果があった。その上で、今年度は、対話活動における「個に応じた指導」の充実を図るための手立てを工夫していくことで伝える力を高め、伝えたいことを明確にした対話活動が充実するようにしていく。これらの手立てを講じることで、目指す児童の姿に迫ることができると考える。

このように、ＩＣＴを活用する良さを取り入れながら、「伝える力」と「聞く力」の双方を段階的に育み、「伝え合う」力を高めることができれば、児童に新たな社会を生き抜く力が身に付いていくと考える。

３　研究の方法

（１）研究の手順

Plan（計画）	○児童の実態の把握（アンケート or プレ授業） ○指導および評価計画の作成（事前検討会） ○目指す児童像の構想 ○評価内容・方法の具現化 ○授業の構想案の作成（伝える力をどのように高めるか）
Do（実行）	○ＩＣＴ機器の操作方法の習得 ○単元の授業実践（対話活動をどのように取り入れるか）
Check（評価）	○指導の有効性を検証（事後検討会）
Action（見直し）	○分析結果から指導方法の見直し →効果があったか（伝える力を高めることができたか）

（２）　授業実践

①　指導計画に基づき、日々の授業で積み重ねを行う。

②　授業研究

- 各学年で前期、後期を決定し、授業を公開する。
- 公開授業に向けて、各部会の部長を中心に、それぞれの部会全員で協力して授業構想を行う。
- 公開授業では、指導案を作成し、授業を行う。
- 公開授業は、時期が重ならないように調整する。
- 公開授業の事前検討会は、１週間前までに、事後検討会は、その日の授業後に行う。
- 事前検討会、事後検討会共に、部会長が司会、まとめを行う。
- 事前・事後検討会は全員が把握できるように、ホワイトボードで知らせる。
- 部会内で授業を見合い、各部会で指導方法の有効性を検証していく。

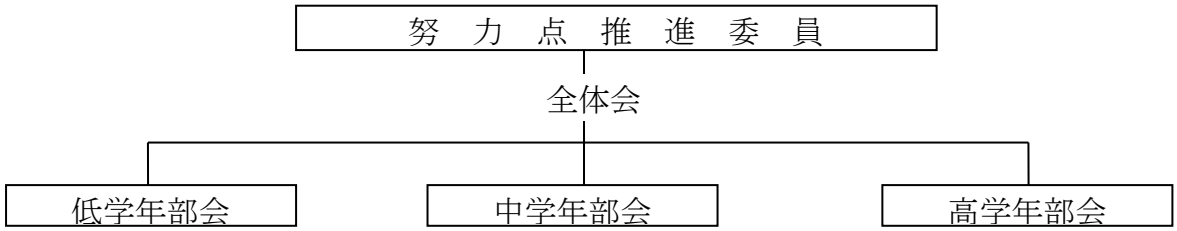
（３）　報　告

中間報告会・・・前期の実践をまとめる。
授業における改善点を修正し、後期の実践につなげる。

最終報告会・・・学年で１年間の実践をまとめる。
取り組みの様子をまとめ、研究を深める。

４　推進計画

月	研　究　の　内　容
４	・　教科を決める。（報告は必要ない）
５	・　実態調査を行い、目指す児童像を検討する。 ・　単元、手だて、検証方法を検討する。 ・　目標の設定、年間計画、１学期の推進計画をたてる。
６～９	・　授業実践を行う。 ・　前期の実践をまとめる。

	・　後期の推進計画を立てる。（前期の実践の課題を生かす）
10	・　中間報告会（10 月 5 日）
10～12	・　授業実践を行う。
1	・　児童の変容を明らかにし、後期の実践をまとめる。
2	・　最終報告会（２月５日）

５　研究の組織